

# 令和4年度第1回いわき市まちづくり市民会議 議事録

- 1 日 時  
令和4年6月23日(木) 13:30~15:00
- 2 場 所  
市文化センター 1階大講義室
- 3 出席委員数  
13名
- 4 次第・資料  
別紙のとおり
- 5 協議事項  
(1) 令和5年度政策立案の視点及び課題等について  
(2) その他

## 6 協議事項等の内容

### ◇ 議事録署名人の選任

発言者	発言要旨
議 長	議長として議事の運営にあたらせていただく。円滑な進行にご協力願う。  本日の議事録署名人についてだが、以前定めたとおり、議事録署名人については、名簿順に指名することとし、本日は、名簿順で参ると、下境委員と根本委員にお願いしたいと思うが、よろしいか。
委員一同	(異議なし)

### (1) 令和5年度政策立案の視点及び課題等について(資料1及び資料2)

発言者	発言要旨
事務局	資料1・資料2に基づき説明
議 長	ただいまの説明に対して、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
委員一同	(意見なし)
議 長	それでは、始めにお話ししたとおり、市の政策を立案していくうえで、重要な根幹となる市の課題について把握するため、委員の皆様から、それぞれ

が所属する団体等で抱える課題や意見について、お1人3分程度を目安にお話しいただく。

木村委員

- コロナ禍においては、全国的に厳しい医療体制が続いてきたものの、医療人材が不足していると言われている本市は、市医療センターを中心に協力病院が連携して対応してきたことから、他の地域に引けを取らない医療体制により対応することができた。

しかし、一方で、コロナ禍における通常の医療が制限された部分や、検診の受診率が低下するなど、今後、病気の重症化が徐々に顕在化してくる懸念がある。

今年度は、感染者もやや少なくなってきているため、検診の受診を促すなど、市民の健康促進のための活動を展開していきたいと考えている。

- まちづくりの観点からは、「地域包括ケアのまちづくり」という、病気や要介護、認知症になった場合でも安心した生活ができるよう、医療と介護の連携は元より、住民同士のつながりを作っていくという考え方があり、これからはその取組みを、十分に力を入れてやっていく必要があると思っている。

- 災害弱者への対応も重要であり、要援護者の名簿をそれぞれの地域で共有し、実際に、避難訓練やシミュレーションを通じた取組みなどを通じ、実動に活かせるよう相当力を入れてやっていく必要があるのではないかと思う。

- 今年度、小中学校において、我々が作成する、認知症・がん・在宅医療といった地域包括ケア等をテーマとしたビデオを元に、外部講師が授業を行う「心の授業」という取組みを計画しており、今後、試験的に実施していくこととしている。

また、磐城高校において、今年度から創設された医師づくりのためのコースプログラムについて、私も講義を担う方向で動いているが、やはり、いわきに戻ってくれる人材を育成するには、小学校4年生ぐらいから、この地域を大切にしよう、戻りたいと思ってもらえる教育をしていく必要があると思っている。

下境委員

- 昨年、いわきに赴任してきたが、コロナ禍だったため、完全に対面授業ができず、改めて学生を前にした授業ができるようになった状況にある。

- 現在は、生活等もコロナ前のように戻りつつあるものの、このような状況が続いていたことから、本学の例では、学園祭を経験した学生が卒業してしまい、どのようにやるのか誰も分からないといった状況があった。おそらく、これは他の分野においても、同じような状況になっていることがあるのではないかと懸念認識した。

- 若年者の流出が課題となっているという話があるが、本学に通う本市または近郊の地域の学生は、ほぼ全員が地元での就職を望んでおり、非常に地元志向が強いと感じている。

<p>根本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● また、一方で、本市に転入してきた市民目線からの課題認識としては、いわき市はキャッシュレスを導入していない店舗が多いことや、公共交通機関においても未だに Suica が使えないことが挙げられる。他の地域と比べ、このようなデジタル分野が驚くほど遅れている。</li> <li>● 経済的な視点から見た本市の一番の課題は、「事業継承」である。</li> <li>● 約 3,500 程度の会員企業がいる商工会議所において、後継者が決まっている企業は3分の1程度であり、更に、後継者が決まっていない企業の3割は廃業を視野に入れているという実態があり、地方経済にとって非常に由々しき事態である。</li> <li>● 今後は、各地域において、お店を継続させていくような取組みや、ビジネスの効果的なマッチングなど、必要な施策を講じていくことが大きなポイントとなる。</li> <li>● また、新しい産業の創出により、若者流出を阻止し、人を回帰することができるのではないかと考える。カーボンニュートラルポートに先んじて検討する港に選ばれた小名浜港の例や風力発電事業のように、今後は様々な新エネルギーが大きな切り口を担うと思われる。 これらの流れに乗じ、本市も「再エネ 100 宣言 RE Actoin」に参加することを検討する必要があるのではないかと考える。</li> <li>● 新しい産業の切り口としては、スマートシティ。中央台の方で実証しているスマートシティがあるが、会津若松のように、更にその上の、スーパーシティにエントリーするなど前向きな動きの市もあるため、本市においてもぜひ実現して欲しい。</li> <li>● MaaS についても、ぜひブラッシュアップし、取組みを続けてほしい。</li> <li>● 資料にもあったが、スポーツや文化も、今や産業である。いわき FC も非常に頑張ってくれているし、サイクルを通じたスポーツ促進など、スポーツや文化を通じた人口の流入も図っていったらよいのではないかと考える。</li> <li>● もうひとつのポイントは、「子どもたち」である。特に高校生と地元企業等との接点を今までより多く作り、子どもが市外に出ていってもいわき市に帰ってくるような流れを作っていければよいと思う。 現在は、このような取組みを商工会議所でも中心事業として実施しているが、この取組みを商工会議所に限らず、市全体的に取り組むことができれば、もっと良い結果が出るのではないかと考えている。</li> </ul>
<p>草野充宏 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 根本委員の意見にもあったが、我々商工会としても「事業継承」が一番の課題となっている。</li> <li>● また、コロナやロシアのウクライナ侵攻等の影響による物価高騰は、商工会として非常に厳しい影響を受けている。</li> <li>● 資料にもあったが、40 年後には人口が約半分になってしまうという状況にある。これは一朝一夕に解決できるものではないが、私は、解決策の</li> </ul>

<p>田子委員</p>	<p>ひとつとして、親との同居を提案したい。核家族としての子育ての良さはあるものの、親と同居することで、子育ても協力してもらうことができ、子育ての環境が整っていることから、更にもう一人子どもを産もうということにも繋がると思う。</p> <p>については、市は、一緒に住むための増改築支援や既存の補助制度の活用の周知徹底などに取り組んでいただけるとよいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一方で、教育の観点からは、幼少時代より、学校教育等の中に常時、自分たちのふるさとの良さを知ってもらい、愛着を形成していく機会を設けることが大事だと思っている。地道に続けていくことにより、若者のUターンを促進でき、人口減少に歯止めをかけることができるのではないかと考えている。</li> <li>● 我々、経済同友会では、世界中の政治経済環境等の分野における現状を中長期的に分析し戦略を立てることを目指し、昨年度、中長期戦略研究会を立ち上げたが、その中において痛切に感じることは、中長期に渡る課題への施策を考えるにあたっては、それぞれの独自の視点ではなく、まず、日本の現状を、マクロ的に捉え、客観的な視点から把握することが必要ということである。</li> <li>● また、他の委員からも、教育の大切さについて意見が出たが、私は、将来的に世界に羽ばたき、いわきに価値をもたらすトップ層の人材教育も必要であると考えます。</li> <li>● 話題になっている明石市の子育て施策の話や、印西市のニュータウン政策からの成功の事例、福岡市の人口が増加している実例など、他市でも成功しているまちづくりの例が多くあるため、我々も綫花的な話ではなく、捨てるところは捨て、特化するところは特化するというメリハリある施策を講じながら、本市を実効的に伸ばしていく必要があると認識している。</li> </ul>
<p>草野 宏 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 林業の業界においては、人材不足が深刻な問題となっている。</li> <li>● 現在、林業業界では、高性能機械が普及し始め、伐採から市場への搬入に至るまで、全ての工程において必ず機械を用いた作業をするのが通常の流れである。これらの機械は、購入単価が1千万円以上するものもざらにあり、新規に参入しようと思っても、必要機械を一式揃えるにあたっては、4,5千万にのぼる初期費用が必要とされることから、起業しづらい。</li> <li>● 一方、ウクライナの情勢などを背景に、国産材が見直され、製品価格が上がっている。</li> </ul> <p>しかし、この状況を生かすことができないのは、生産能力がずっと前から変わらないため、流通量を今まで以上に増やすことができないためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● この問題を、我々業界では深刻な問題として捉えているものの、情報発</li> </ul>

信する機会が少ないため、本日の会議のような機会を捉え、この状況をぜひ知ってもらうことが、我々林業業界としては重要だと考えている。

緑川委員

- コロナの感染状況が落ち着きをみせはじめ、国においても今度、全国旅行支援といった施策の実施が予定されるなど、今後、ますます、各地において観光客の奪い合いといった状況が出てくる。そのような中、いわきが観光先として選ばれるかという話になると、中々ハードルが高いと思うため、まずは誘客に結びつけるための施策に集中して投資をすることが必要だと思う。
- 先ほど、地方創生交付金事業について、事務局から説明があったが、このような交付金があるからではなく、本気になって人を呼ぶ施策をみんな考えていかないと、選ばれる観光地にはなれない。
- また、フラシティいわきということで、私たちも含め、アロハシャツを着用しているが、市外から来られた方には、非常に珍しく、印象に残っているようだ。  
このような、「いわきといたらこれ」といった観光ブランドイメージの構築も必要な要素だと考える。
- 我々が毎年度実施している、いわき市観光アンケートにおいて、本市の魅力は、食事がおいしいとか自然が豊かといった声がある一方、不満要素として、ハワイアンズしか知らないといった本市の観光情報の不足が声としてあがっている。
- また、観光地へのアクセスの悪さについても指摘があり、二次交通の充実も必要な視点である。市として、そのような部分を考慮に入れ取組みを進めてもらえると、私どもとしても取組みを進めやすい。

野木委員

- PTA としての課題としては、これまで何となく惰性で実施していた取組みなどがある中、コロナを契機に、今後は、本当に必要な取組みと不必要な取組みを選別し、新しい活動という視点のもと、取組みを進めていきたいと考えている。
- 現在の小中学校における GIGA スクール構想に基づく取組みにあたっては、当然今後も進めていくべきものであることから、PTAとしても、しっかりフォローできるよう対応して参りたい。
- 本市はキャッシュレスの取組みが全然進んでいないことから、取組み促進のため、例えば、電子マネーでお年玉プレゼントをするといった、思い切った取組みを進めることもありなのではないかと考える。
- 先ほども田子委員から意見があった明石市の例では、2020 年度出生率が 1.7 という高い数値にあり、子どもに関連した取組みに十分な予算をつけていることから、本市もぜひ子どもに関連した取組みに予算をつけていただき、必要な政策を実施していただきたい。
- 私は、先ほどサイクル関連の話が出たが、パラサイクルを競技される方々が目指すのは、やはりいわきだというような場所をつくっていただきたい

	<p>いと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● また、私自身、エネルギー関連の会社に勤務している傍ら、VPP（点在する小規模な再エネ発電や蓄電池、燃料電池等の分散された発電設備やシステムをひとつにまとめること）の必要性についても言及したい。まだまだ東北エリアでは浸透していない実態があるため、本市が先導して着手できるような自治体を目指していただきたいと思う。</li> </ul>
<p>金成委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私は、30年以上の区長経験を通じて思うことは、まちづくりにおいては、やはり地域活性化の観点から、その地域の伝統である祭りを絶やさないことも重要ではないかと考える。</li> <li>● いわき市全体においては、産業の活性化も重要であるが、やはり教育が一番大切であり、長期的な観点からは、市外県外へ出なくても、本市で十分な教育が受けられるような教育施設の整備・充実も必要だと思う。</li> </ul>
<p>松崎委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、青年会議所の会員数は、10年前から比べると半数まで減少している状況にあり組織の課題となっている。</li> <li>● その原因として、2つあると考えている。</li> <li>● 1つは、いわきのまちづくりに興味を持たない若者がとても多いことである。若者が当事者意識を持たないと、本市は本当に衰退してしまうと考えており、我々青年会議所は、私たちの考える事業に若者を巻き込みながら、本市のまちづくりに興味を持っていただき、いわきを好きになってもらえるような事業をつくっていきたいと考えている。そして、併せて、これからのいわきを背負って立つ若いリーダーを輩出していきたい。</li> <li>● 2つ目は、若者の首都圏流出である。高校を卒業して大学にいても、都市で学んだ技術や知識をいわきに帰ってきて発揮してほしい。そのために、受け入れ側としても、若者がもっと活躍できる場所や事業をつくり、環境を整備していくことが重要であると考えている。</li> </ul>
<p>金子委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先ほど木村委員からもご意見があったが、コロナの影響により、検診受診率が低下している。日本対がん協会の発表によれば、2020年度の検診受診者は、対前年比で30%程度減少しており、本市においても、2019年に大幅な検診受診率が減となった以降、2020年にはやや増加に転じたものの、がんの種類により状況は異なるが、全体的に非常に低い検診受診率の現状がある。</li> <li>● 検診受診率が減少するということは、がんの発見が遅れ、粛々と進行する状況となるため、非常に大きな問題だと認識している。</li> <li>● 私は細胞検査の業務に長年従事してきた立場から、この状況の深刻さを知ってもらいたいと思っている。市が、この状況を真摯に捉え、検診受診を促す広報を行うなど努めていただくとともに、子宮がんや乳がんなど、検診受診の開始年齢になった際の、受診を促す取組みについても、</li> </ul>

松本委員	<p>ぜひ併せて行っていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● また、以前は実施されていた健康祭のようなイベントを再開するなどし、健康の大切さについて、市民に訴えていく機会を設けることも、取組みの一つとして考えられるのではないか。</li> <li>● 駅前のまちづくりに関わる団体で活動してきている経験を踏まえ、2つ話をしたい。</li> <li>● 1つは、「職員の教育」についてである。公民連携を行うための知識というのは、技術者と同じ専門レベルのものであり、職員が必要な知識及びスキルを身に付けるためには、必要な予算をかけて、職員を教育しないと、実務に全く活かすことができない。今、日本で一番公民連携を体系的に学べる学校「都市経営プロフェッショナルスクール」という社会人スクールがある。現在も、全国の自治体職員が学びに参加しているところだが、いわき市は、民間人以外誰も参加しておらず、いわき市の本気レベルの低さがうかがえることから、真剣に公民連携に取り組んでほしい。</li> <li>● 2つ目は、今の行政の中に「公共空間の価値や役割の定義」というものはあるかということである。市の総合管理計画を見ても、費用の削減が目的になっており、非常に危険と考えている。 公共空間は、その街の顔であり、まちの魅力そのものであり、市民が生き生きと暮らせるかが一番出る場所である。機能が最低限満たされているだけでは意味がなく、どう市民が気持ちよく過ごせるかが一番大事であり、それが成されれば、自然と商業、街の活性化にもつながっていく。公共空間に魅力がなければ、若者の市外流出にもつながってしまうことから、費用削減だけを目的とせず、公共空間の価値や役割をきちんと定義し、良いまちづくりにつなげてほしいと思う。</li> </ul>
議 長	<p>只今、松本委員から、公共空間の価値や役割について話があった。市として意見はあるか。</p>
事務局	<p>公共空間の価値や役割に関して、市としては、当然、費用については重視するものの、いわき駅前の公共スペースの活用においては、庁内の若手職員で検討委員会を立ち上げ、若手目線でのアイデアを出し合いながらスペース活用の方法をまとめるなど、これまでにはない取組みの実践を通じ、市民の皆様本当に役立つ施設づくりという観点で取組みを進めている。</p> <p>しかし、松本委員からご意見いただいたように、公民連携を学ぶための職員研修など、さらに新たな切り口からの取組みも必要であると考えことから、いただいたご意見を踏まえ、さらに今後の取組みに活かしていきたい。</p>
議 長	<p>各皆様からいただいたご意見は、どれも市の事業立案に重要な内容であると再認識した。事務局いかがか。</p>

事務局	<p>様々な分野からご意見をいただき、「人づくり」がキーワードになったと感じている。「人づくり」は、市長が取組むと掲げている分野のひとつである。皆様からいただいたご意見を、本市の人づくり施策につなげていきたいと考えている。</p> <p>また、只今いただいたご意見は、内部関係部署で共有するとともに、直ちに対応が可能な取組みは反映し、中長期的な課題等については、今後、必要な調査や検証などを行いながら、対応に向け進めていくこととする。</p>
議長	<p>市は、各委員からの意見を真摯に受け止め、十分対応すること。</p>


(2) その他

発言者	発言要旨
議長	<p>他になければ、以上で本日の議事はすべて終了する。</p> <p>以上をもって、私の本日の役割を終わらせていただく。</p>

以上

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名押印する。

令和 4 年 8 月 23 日

議事録署名人 下境 芳典 

令和 4 年 8 月 12 日

議事録署名人 根本 克頼 